

(参考)意見まとめ表 ※この表は委員の皆さんから出たすべての意見を表にまとめたものです。

①現在の松江市立図書館に対する市民の思い(イメージや印象)	
論点について、現状課題と感じていること	論点に関して意見、要望
○立地	○施設全体として
<ul style="list-style-type: none"> ・ 利便性(立地場所や景観、広さ)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ②と合わせての意見となるが、今出ている課題や図書館に対する不満を解消するためには、新たに図書館を建て替えることだと思う(無料駐車場も十分に確保され、飲食、学習する部屋も充実していて、幼児から高齢者までが使えるような建物)。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 読書や調べもの等で利用してみたいけれど、アクセスが不便(バス利用が面倒、駐車場に停めづらくて面倒)。 ・ 行きにくい。 ・ 小学校から徒歩圏内にあるか？ 小学生は来館しにくいのでは。 ・ 車が停めにくく(狭く、距離もある)、気軽に立ち寄りにくいイメージがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ハード面に関しては検討が必要。 ・ 「松江市立図書館は○○です」といった施設の特性を設定し、その機能に特化した整備を充実。 ・ 交通の便利さ。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 車が停めにくく(狭く、距離もある)、気軽に立ち寄りにくいイメージがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 車や自転車を停めやすく。交通弱者の方々も行きやすいよう循環線のバス停を作ってもらいと、バスの利用促進にも繋がり、普段図書館に通わない層もバスを待つ時間を利用して図書館に立ち寄る相乗効果も出るかと思う。
○駐車場	○駐車場
<ul style="list-style-type: none"> ・ 駐車場不足。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駐車場の整備は必須。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 駐車場の少ない。 ・ (中央は)駐車場が少なく有料なので、ふらっと行きにくい。 ・ (中央は)駐車場(有料)の問題(長時間利用できない)→レファレンス依頼ができない。 ・ (中央は)駐車場が使いにくい(返却のみ、ポスト利用時の“ちょい停め”でも)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駐車場の確保。交通の便利さ。学習スペースや親子で過ごせるスペース。 ・ 滞在型図書館に向けた改善とレファレンス機能の強化。 ・ 駐車場は有料でよいが、台数を確保してあることを望む。 ・ “ちょい停め”ができるような駐車場と玄関までの距離や返却方法の工夫があるとよい。
○館内設備	○館内設備
<ul style="list-style-type: none"> ・ 建築後年数経過によりお手洗いなど小さな子どもを連れて利用しづらい。 ・ 学習室等のスペース不足。 ・ 勉強するスペースが少ない。 ・ 本を読むスペースが少ない。 ・ 児童のコーナーと一般利用者のコーナーは別の部屋にした方がよいのではないか。 ・ 静かな学習スペースとラーニングコモンズのような会話可能なスペースがあると良い。 ・ 図書館は、子育て世代にとっても貴重な施設だが、現在スペース分離ができていないことで、中には子どもの声を不快に感じる方もいて、子どもも保護者も肩身の狭い思いをされることがある。トイレにベビーチェアがない。 ・ 学習スペースの不足。出来るだけの配慮をされているが、それでも開館30分前から 並んでいても整理券がもらえない時があるほど足りていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ お手洗いなどの環境整備は必須。 ・ 学習スペースを。 ・ 一日ゆったりと本を読んだり途中で休憩したり食事をとったりできるスペースがあるとよい。 ・ 図書館は誰もが「知りたい」と思った時に行くことができる場所、使いやすい場所であることが重要であると考えてるので、ユニバーサルデザインが適用された環境が整っていることが必要ではないか。 ・ 新しい図書館では、どの世代にとっても快適に利用できるよう、配置の工夫や十分なスペースと設備の確保をお願いしたい。それまでは、トイレの間など少しの時間、お子さんを預かれるような温かいマンパワーでハード面の不便さをカバーしていただきたい。職員の方で難しければ、乳幼児さん向けの企画の日だけでもボランティアを募集するのはいかがか。ファミサポの日、シルバーさんの日があると、サポーターと保護者のマッチングにもつながるかも。 ・ 新しい図書館ではスペースの拡充を。静かな個別スペース、オープンスペース、少し話し教え合うこともできるスペースがあると良いと思う。それまでの期間、島根大学では、中高生向けに学習スペースを用意されているそうなので、是非県立大学の方でもそういう支援をしていただけるとありがたい。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習室は利用しても図書は利用しなかった。 ・ 学習室はもっと多い方がよい。 	
○館内の雰囲気	○館内の雰囲気
<ul style="list-style-type: none"> ・ 静かに過ごさねばならない雰囲気。子連れで行きにくい。 ・ 子ども連れで利用しにくい。 ・ かたいイメージ(用事がないと行ってはいけなイメージ)。 ・ 均一的なイメージ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 親子で過ごせるスペースを。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 静かに集中するスペース、会話ができるスペース、飲食ができるスペース、子どもが遊べるスペースと、照明や壁紙なども変化をつけ、それぞれの人が目的ごとに居心地の良さを感じられると思う。お気に入りのスペースが見つかったら、継続して通いたくなる人も多いかと。 	
○利用状況	○利用状況
<ul style="list-style-type: none"> ・ 一部の常連客しかいないイメージ。 ・ 毎日来館するコアな利用者も一定数存在する。 	
○図書館機能、実施事業	○図書館機能、実施事業
<ul style="list-style-type: none"> ・ きちんとリサーチすれば、オリジナリティのあるイベントをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ すばらしい取り組みをしても、なかなか情報として届いていないと思う。 ・ 特に移住者や大学生など、松江市で生まれ育った人間でない場合、途中から情報を入れることが難しいように思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般の図書館として、視覚障がい者への情報提供が不十分で、疎遠な感じ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ イベントの情報を視覚障がい者にも発信してほしい。 ・ 図書館の情報やイベントを効果的に市民にアピールする工夫をしてほしい。 ・ 情報誌を点字だけでなく、音声でも作ってほしい。 ・ 全国視覚障害者情報ネットワーク「サビエ」に登録してほしい。ライトハウスライブラリーと強く連携してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書貸し出し機能中心。 ・ 市民の要望に沿うかたちで、時代の変化に合わせた機能に変えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 読書への道筋をつけていただける司書の配置。 ・ 専門性の知識を持った人員の配置により、より深く地域を理解するための助言を得られるようにできればと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 小説やハウツー本の収集が多い。 ・ (中央は) (橋北の県立図書館に対して) 橋南立地の公立図書館である。 ・ (松江市の拠点は県立図書館であり) その機能を一部補完する存在。 ・ ホールを含めた施設全体が「松江で文化を享受するならここ」というイメージを作っている。第1回会議で話題になった社会活動はスティックビルがその役割の中心を担っている。図書館を「本を読む／借りる」インプットの場としてだけでなく「参照して書く／行動する」アウトプットの場としての性格を拡充するならば、スティックビルとの役割分担に注目する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県立図書館に「地域内総合図書館」機能をお任せして、「松江市および松江市の○○」はこちらにお任せを！といった専門知識を有する職員の配置・育成。 ・ 図書館をアウトプットのための貴重な社会資源と受けとめているが、市民全体の施設としてどこまでアウトプットに配慮すべきかは、他の諸条件との兼ね合い。
<ul style="list-style-type: none"> ・ (中央は) 駐車場(有料)の問題(長時間利用できない)→レファレンス依頼ができない。 ・ どんな類の本があるのかわからない(例:漫画はあるのか? 子ども向けはあるのか?)。 ・ 保育所経由で絵本を利用した。 ・ 移動図書館はありがたい。 ・ 歴史にはまったとき、より専門的な蔵書があり楽しく通った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 滞在型図書館に向けた改善とレファレンス機能の強化。 ・ 来館者数を伸ばすことと、出張して利用者数を伸ばすこと(図書館とのふれあい向上)の両軸が必要。 ・ 来館者数を伸ばすにも、来館・図書利用を増やしたいターゲット別を明確にして分けて策を練る。 ・ 蔵書のアピール。 ・ 「当たり前」の常識が「当たり前」でないこともあるので、情報発信の内容やツールも工夫する。
○未利用者	○未利用者
<ul style="list-style-type: none"> ・ 駐車場や設備などの問題もあり普段から行きつけないと足が向かないのではないかな。 ・ 利用経験のない人の方が多い(図書館以前にプラバ未利用者もいる)。 ・ プラバの中に図書館があることを知らなかった。 	

②市民が利用しやすい図書館とは	
論点について、現状課題と感じていること	論点に関して意見、要望
○立地	○立地
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自家用車にしても、公共交通機関を利用するにしても、アクセスが悪い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 松江駅前のような、公共交通機関でのアクセスが良く、子どもや高齢者や障がい者にも行きやすい場所への移転を望む。 ・ 交通機関でも車でももっとアクセスしやすい場所を望む。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「イオン」など商業施設に隣接して、図書館と学習や会議ができる建物があれば、市民は身近な場所だと感じると思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・ アクセスしやすい場所、公共交通機関が利用できること。 ・ JR松江駅内であれば、施設隣接のメリット(集客、飲食施設、アクセス等)享受も可能だと思うが、プラパホールとの隣接では効果が薄い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行くのが億劫にならない良好な立地・アクセス(バス・駐車場使用時いずれとも)。 ・ 遠くに1つ図書館をつくって、周りに付帯な施設ができることを狙うのか、今ある程度賑わっていて、その場所に図書館を逆に戦略的にもつくるのか、少しタウンマネジメント的に考えるのにも必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 物理的には「訪れやすいこと(駐車場や公共交通機関の接続)」「身近に来てくれること」。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 積極的に図書館を目指してくる人には当然駐車場や公共交通機関のアクセスが重要であるが、たまたま来たところのそばに図書館があったということで、JRの駅至近(=バスターミナルの至近)であれば、多くの人がウィンドウショッピングと同じ感覚で図書館に来てくれる可能性がある。 ・ 人が多く集まる場所(市役所、病院、店舗)など、何かのついでに本が借りれると利用しやすくなるのでは。 ・ 人が集まる場所に出張みたいな形で図書コーナー(短期的にでも本を借りられるコーナー)をつくって、中央図書館の認知度を上げる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行きやすさ(立地。車や自転車が止めやすい。バスの便がよくある)。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 場所に関しては公共交通機関を利用して行きやすい場所にあることが重要ではないか。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもや車に乗らない方でも利用しやすいよう、アクセス向上を望む(立地も含め検討されたい)。
○駐車場	○駐車場
<ul style="list-style-type: none"> ・ 駐車場から建物まで安全に移動できること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駐車台数、無料時間、距離、安全性。 ・ 駐車場の整備だけでなく、駐車場から建物の中まで安全に移動できるような配慮も必要。 ・ 現在の駐車料金無料時間の30分では、図書館の駐車場から建物までの往復と本の選書の一連の行動が時間的に厳しいので、時間的配慮も必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 駐車場がたくさんあってほしい。 ・ 駐車場の環境整備が大切。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駐車場の無料化。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 階段がある駐車場については、小さい子どもを連れて行き来するのは結構大変だったという印象がとても大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駐車場を広くとれるということと、駅や周辺のアクセス・公共交通機関のアクセスがとても便利などの両方を取るというのは、松江市では現況難しいのではないのか。両方を取ることはとても大事だが、立地を考えるにあたり、その矛盾点をどのようにクリアしていくのか。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駐車場増設と公共交通機関の利便性の両立の難しさについて、例えば駅から定期的にシャトルバスを出せば駐車場の増設や新規のバス停を設置しなくても済むのではないか。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中央館の駐車場の課題解決。 ・ 無料時間について、事務局提案では1時間としているが、調査結果の「2時間以内に95%が出庫」であれば、2時間が妥当ではないか。自分の経験上からしてもそう感じる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現行施設については駐車場拡充を強く望む。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 松江市の現状では、自家用車での個人移動が多数を占めていることから、滞留時間の長い図書館利用者に対して駐車台数が不足しがちであり、そこが利用数頭打ちのボトルネックになっているのでは？ 	

○館内設備	○館内設備
<ul style="list-style-type: none"> ・老若男女が集える場所。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・学習スペースの充実。
<ul style="list-style-type: none"> ・お手洗いなどの環境整備や、くつろげる場所があること。 ・お手洗いの数が少ない。利用しにくい。 ・館内案内表示標識が小さい。導線表示が無い。 ・静かな環境で読書できない。子どもスペースとの混在はよくない。子どもの親も気兼ねする。 ・読書スペースが少ない。狭い。 ・書架と書架のスペースが狭く、車いす等での利用が不便。 	<ul style="list-style-type: none"> ・誰でも利用しやすい環境整備。子どもたちにも、ママたちも気兼ねしない居場所。 ・高齢者、親子、障がい者にも使いやすい施設にしてほしい。車いすの方が使いやすいお手洗いを増やし、一般のお手洗いについては洋式トイレにしてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・市民が集まり、コミュニティ形成ができる場。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・均一的なイメージ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お気に入りの椅子やスペースが見つかったら継続して通いたくなる。 ・勉強や読書に最適な照明と椅子、寛げる少し暗めの照明にソファなど、一律でそろえるのではなく、色々なものを取り揃えて、それぞれの人が快適に過ごせるような居心地の良さを考えてくれるとうれしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・図書館側が利用者を決めない、誰にでも開かれた環境。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最低限のお手洗いのスペースや、段差をなくすというバリアフリーは前提で、図書館側が発信して、「誰でも来てくださいね」という配慮をつくる必要がある。例えば、看板に「お声をお掛けください」というところを少し目立たせるといところで、「もっとこうしたら入りやすいな」という空間を、館内のスタッフさんの手を借りてでも、行き来がしやすい状態をつくることというのも言葉がけ一つでできるのではないか。
<ul style="list-style-type: none"> ・児童向けのコーナーと一般利用者のコーナーは別の部屋にした方が良いのではないか。 ・また、静かな学習スペースとラーニングcommonsのような会話可能なスペースがあると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・館内は快適に過ごせる空間が整っていることが重要ではないか。
<ul style="list-style-type: none"> ・市民にとって利用しやすい環境であること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近に図書館があるのは必要であり、旧八東郡の各町村に図書館があれば理想的だが、財政面もあるので分館や地域館の検討も必要ではないか。
○館内の雰囲気	○館内の雰囲気
	<ul style="list-style-type: none"> ・明るく、居心地の良い空間と雰囲気。
○利用状況	○利用状況
○図書館機能、実施事業	○図書館機能、実施事業
<ul style="list-style-type: none"> ・3つのセンター機能が充実していて、尚且つ居心地の良い場所であること。 (学習センター、読書センター、情報(メディア)センター) 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共図書館のほうも、この3つのセンター機能が整うような感じであれば良いのかなと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の文化、歴史を知る、触れることのできる場。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のコミュニティの場であってほしい。 ・地域で行っている行事を集約してここで行う。人を集める機能を盛り込む。 ・地元の歴史を知る上では図書館を利用することも多いので、地元の歴史について図書館に一元化し、トータルで地域の歴史が学べる場であってほしい。 ・地域で行われているイベントなどにおいても、図書館が情報が集まる、情報が知れる機能を持って、人が集まってくる施設にしてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・知りたいときに知りたい”正確な”情報が手に入る場所。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会問題や地域課題など、書籍を通じて発信・啓蒙するコーナーの設置。 ・返却、貸出などの事務作業はできるかぎり無人化し、捻出できた人件費部分で「コンシェルジュ」の育成や運用を行い、質の向上を図る。 ・時代によって「ニーズ」が変わってくるので、いち早くそれに対応する。
<ul style="list-style-type: none"> ・心理的には「魅力的な活動をしてくれること」「活動に参加するのに負担感が少ないこと」。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用しやすい図書館とは、単に個人作業として本を探し出す、読むというだけではなくて、そこから一歩先に進めるような機能(同じ作家好きの人と一緒に何かイベントに参加するなど)があると良いのではないか。

	<ul style="list-style-type: none"> 山陰両県内の図書館で借りれるような仕組み。 高齢者が利用しやすい。
	<ul style="list-style-type: none"> 盲学校とも連携して視覚障がいのある子どもたちが親子で楽しめるイベントを企画してほしい。 課題の解決に取り組む。
	<ul style="list-style-type: none"> 勤務後に立ち寄ることのできる利用時間設定。 使用ルール(利用の仕方)が「知りたくなったらすぐ理解できる」ような広報。 各公民館の活動内で「市立図書館を利用してみよう」を企画実践(イメージは交通局の「バスの乗り方講座」)。
	<ul style="list-style-type: none"> 司書の方の専門性の高さは市民への安心や信頼につながるのではないか。 分館の整備、障がい者向けサービス(宅配など)、定期的なアンケート調査の実施 等。
<ul style="list-style-type: none"> 「図書館が好きで」とか、図書館の良さが分かっていて図書館に来られる方がどう活用しやすいか。 図書館をあまり利用していない層に図書館の良さや本に触れるメリットがどんなことがあるかをどう伝えていくか。 	<ul style="list-style-type: none"> ふらりと立ち寄れる、くつろぎながら図書に触れられる、くつろげるコンテンツや他の目的の施設との複合にする。 <ul style="list-style-type: none"> コーヒーやドリンクを楽しみながら(カフェ)。 岩盤浴をしながら。 親子室、レンタルマイルーム(親子やグループで好きな図書を持ち寄ってくつろぎながら読める、または勉強もできる。ドリンク可)。 PCを広げながら(Wi-Fi)。 複合ショッピング施設との併設。 司書や職員のおおらかな受け入れ、コミュニケーションのしやすさ、専門性(例:鳥根県立大学松江キャンパス おはなしレストランライブラリーの司書さん。来館者の名前や好みを把握したり、挨拶や声掛けもプロフェッショナル。本の知識も豊富)。 繰り返し来館する楽しみづくり。 <ul style="list-style-type: none"> 来館ポイントがあり、貯まったポイントを市民サービスやショッピングで利用できる。
<ul style="list-style-type: none"> 行くとありがたいと感じるのに、一度足が遠のくとそのままになってしまいがち。 	<ul style="list-style-type: none"> 楽しい企画。 「今月は〇〇小学校の何年生さんの選書」のように参加できるコーナーがあると、親子で来館するきっかけになると思う。 金融機関の通帳のように、借りた日と本の題名、著者などが印字される「読書履歴通帳」を導入しては、という意見をいただいた。もっと低予算でできるオリジナルの手帳でも良いと思う。えんむすびぶっくの希望者の方やお子さんにプレゼントして、手書きで記録してもらおうと、子育てと成長の記録として良い思い出の一冊にしてもらえ、来館意欲も高まると思う。その内容のシェア会があっても楽しそう。
○未利用者	○未利用者
	<ul style="list-style-type: none"> 今迄足を踏み入れたことのない市民が「行ってみたい」と思える仕組みが必要。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒常連さんを虐げることなく、新しい人・子どもも利用しやすい配置にすべき。
<ul style="list-style-type: none"> 日中働いている方は利用しにくい。。 図書館の利用、活用方法が分からない。 子どもが利用する際は、大人が連れて行かないといけないイメージ。 	<ul style="list-style-type: none"> 働いている親が子供を連れて図書館に来館できるように、月に1回とか2回とか、夜にオープンするようなどきがあると良いのでは。 学校図書館から市立図書館への誘導(学校図書館と異なる使い方、楽しみ方)。

③これからの図書館に求められる機能とは	
論点について、現状課題と感じていること	論点に関して意見、要望
○施設・設備	○施設・設備
<ul style="list-style-type: none"> 従来の利用者と最も重要視すべき子どもたちとの共用(子どもたちにとって身近な図書館であるべき)。 	<ul style="list-style-type: none"> 非認知能力というところを伸ばすということが、経済効果という面でも、今後、地域社会にとって重要であり、そのような効果をもたらすことで、子どもたちがまた還元することになるので、子どもたちが利用しやすいような環境をつくってあげるといったようなことが必要なのではないか。
<ul style="list-style-type: none"> 複合型の図書館。 	<ul style="list-style-type: none"> 全国にあるようなスタバやTSUTAYAなどの入っている複合図書館(敷居の低い図書館)。
<ul style="list-style-type: none"> 児童向けのコーナーと一般利用者のコーナーは別の部屋にした方がよいのではないか。 静かな学習スペースとラーニングcommonsのような会話可能なスペースがあると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 視覚障がいの方に、新刊書音声ガイドがあったり、音読のコーナーがあると良い。 認知症予防に音読が有効と言われているので、そういうコーナーがあると良い。 従来の図書館機能に加え、図書館で得たことをさらに活用する場所も附属させる必要があるのではない(例:図書館で料理の本を借りて、図書館に附属している建物の中で料理教室を開く)。どの世代に対しても生涯学習につながるような機能があるとよい。
<ul style="list-style-type: none"> 高齢者、障がい者、子ども等に利用しやすく市民に開かれた場。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者に応じた機能(託児室など設け、お母さん方も利用しやすい設備)が必要。 学習スペースなどは静かな環境が必要であり、児童向けは賑やかな空間や賑やかなイベント開催による利用者増を狙うべきだと思うので、同一の建物内で部屋を少し離してやることや、近隣に分館の設置といった利用者に応じた機能を持たせるべきではないか。
<ul style="list-style-type: none"> 利用率をより上げたい年齢層、市としての課題を同時に解決できるようなスペースを併設。 	<ul style="list-style-type: none"> これからプログラミングの授業が小学校でも始まるので、そういったところのスペースを併設していくと、他県にないような新しい図書館ができて面白いかなというように感じる。 静かに読書できる場所と、ミーティングしながら調べ物ができる場所を作ること。 お手洗いの整備などを含めて、車椅子の方や高齢の方も入っていけるように、バリアフリーの整備をお願いしたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ファミリー室など親子や友達連れで好きな本を持ち寄って読めるスペース。
○実施事業	○実施事業
<ul style="list-style-type: none"> 3つのセンター機能をしっかり果たすこと。 	<ul style="list-style-type: none"> メディアセンターとしての機能が求められているのではないと思う。 学校での図書館活用教育は、キャリア教育の視点も含め大人になっても図書館を利用できるような子どもたちを育てたいという意味で行っているが、子どもたちにどういう力をつけさせたいのかということによって、公共図書館の役割も重要になってくるのではないか。
<ul style="list-style-type: none"> デジタルアーカイブの保存、保管、貸出管理。 文化資料の保存、保管、閲覧の場。 掲示板でおすすめ図書を紹介し合う仕組みなど、市民の横のつながりの場としての機能。 	<ul style="list-style-type: none"> ライフスタイルの変化により利用者の利用しやすい時間帯も変わってきている。夜もう少し開館時間が長ければと思う。
<ul style="list-style-type: none"> 読み聞かせに使う大型絵本があまりない(大人向き)。 市民生活や地域の課題に応じたサービス、多様な学習機会の提供。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが本に触れる機会を創出すべき。 大人向けの読み聞かせの実施やそのような相談ができるような司書の配置。 子ども向けイベントだけでなく、専門機関と連携した講座等の開催や子育て・健康・福祉等、住民や地域の課題解決支援のための資料・情報の提供。 図書館がまちづくりに何ができるかを考えたときに、一般に「まちづくりは人づくり」とよく言われるが、図書館においても、人づくりのほうに何か関わっていくのだろうと思う。すなわち、課題に関する、あるいはまちづくりに関する図書のコーナーとか、あるいは講演会とか、そういうものを積極的に行っていくのが図書館としてできることではないかと思う。
<ul style="list-style-type: none"> 時代のニーズに合った、行きたくなるような図書館。コミュニティーの場としての図書館。 	<ul style="list-style-type: none"> 本当に「あそこに行けば、何か知恵が授けてもらえるぞ」というようなテーマにあったコーナーの設置のように、何かプラスアルファのところをみなさんと一緒に考えて、みんなが行きたくなるような図書館になれば良いと思う。

	<ul style="list-style-type: none"> 他地域の先進事例のように複合施設にすることに関しては賛成。だが、やみくもに何でも一緒にしてしまうと、本当に「図書館を求めて利用する層」の満足度が下がりそうで不安。 ⇒松江市ならではの、IoT関連、オープンソースラボ、コワーキングやシェアスペースを併設してみてもどうか？子ども向けプログラミング体験なども。
<ul style="list-style-type: none"> 利用する人は、「自分の使いやすさ」に言及するでしょうし、しない人は「そもそも関係ない」という意識だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 超高齢化している松江市の場合、戦略的に「子どもの養育支援に特化」あるいは「高齢者およびその生活支援者への支援特化」、あるいは鳥取市のように「働く年代に対する支援」など、テーマを絞って特化していくことで、総じて利用が増えるのでは？
<ul style="list-style-type: none"> ごく基礎的な機能として「蔵書の量と質」及び「閲覧・貸出の簡易さ」の充実が一番。物理的限界を超える上で、大学図書館のように紙の書籍と並行して電子書籍の閲覧機能の導入・充実ができるといいが、公共図書館として費用対効果を考えるとハードルが高いかもしれない。 	<ul style="list-style-type: none"> 「アウトプットとインプットの連携」を研ぎ澄まして欲しい。電源や登録制によるwi-fiの開放、アウトプットの場の提供(利用者有志による電子版レポート集・作品集)。
<ul style="list-style-type: none"> 視覚障がいのある方が利用する図書館として、松江市内にはライトハウスライブラリーがあり、視覚障がいのある方の専門的な点字や音声の図書の貸し出しを行っている。ライトハウスライブラリーは専門の施設としては良いが、完全に視覚障がいのある方は図書を借りる場所が分かれてしまっている状況にあって、市立図書館などの一般の図書館では、なかなか視覚障がいのある方は図書を借りにくいという状態にある。 視覚障がいに途中からなった人、歳をとって見えにくくなった人が増えているが、そういう方には専門的な施設は数居が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 録音図書・点字図書・電子書籍の充実。 拡大読書器・ルーペ等の設置・貸出。録音図書再生機の閲覧用貸出。 新聞、雑誌等のリーディングサービス。 視覚障がい者へのイベント情報などの情報提供。
<ul style="list-style-type: none"> 中高生にとっては、行ける場所、友達と一緒にいられる場所や一人で出かける場所が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 一つのタブレットで世界中の情報と繋がり、買い物も自宅で完了できる時代だからこそ、実際に出かけて、たくさん紙の本を自由に手に取り、何気なく人と居ることができる図書館という場が必要だと思う。社会的孤立の予防や軽減、世代間交流の場として図書館が更に活用されることを期待します。一人でも、子どもや友達、家族と一緒にでも、どんな天候でも安心して一緒に出かけられる場所。誰にとっても居心地がよく、色々な世代がそれぞれの暮らしをより豊かに感じられるような知識や人と出会える風通しの良い場所。 地元の子どもの自慢になるような、誇りになるような、新しいものにも触れられるし、人とも出会えるしというような空間になってもらいたい。
<ul style="list-style-type: none"> 本は好きだが、図書館で借りるより書店や中古本屋で立ち読みしたり、買ったり。読破に時間がかかることもあり、所有していた方が読みやすい。 ネットで調べた方が早いし、手軽なので、書籍で調べることがない。必要を感じない。 市民活動に図書館をどう利用するのかイメージがわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書館の活用方法(子どもや大人に教育)、レファレンスとは何か。 学習だけでなくビジネスにも活かせる等、情報発信と実践をする。 子どもたちが図書館活用教育を受けていることを知り、大人も一緒に図書館を活用していくような、大人も待ち育てる姿勢も持つていく必要があると思う。 図書館の機能のみに焦点を当てて考えるのではなく、松江市が目指すビジョンから考えることも大切(どんな力をもった子ども、人間を育むのか)。

④子どもたちにとっての図書館とは	
論点について、現状課題と感じていること	論点に関して意見、要望
○読書空間	○読書空間
<ul style="list-style-type: none"> ・ ゆっくり寛げる、本の世界に浸れる場所であるべき。 ・ 子どもが読書を身近に感じられる環境の整備。 ・ 子どもが安心して図書に接し、遊び過ごせる場所の提供。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園、幼稚園の園児が安心して滞在できる施設に。 ・ 子どもの生活圏や図書館の利用圏を考慮し、ある程度の蔵書規模を持った分館の整備。 ・ 子どもたちが絵本・本に触れる環境、読書の大切さを思うのであれば、そういう環境をしっかりと大人がつくっていくと必要だと思う。 ・ 図書館というのは子どもの知の探究の場所なので、何かしら好奇心を持って来てもらえるような仕掛けを大人がつくってやれば、必ず楽しんで来るようになるような図書館づくりが大切。
○居場所	○居場所
<ul style="list-style-type: none"> ・ いつでも行ける、安心・安全な「居場所」。 ・ 居場所のあるところ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 働いている立場としては、図書館に行ってくれていたら安心だなという感覚なので、図書館が子どもにとっても、家庭で見ている親にとっても安心な場所であると良いと思う。 ・ もう少し小さい子どもが本に親しめる居場所。 ・ 小さい子どもが自分で本を選んで取る喜びを得られる場所。
○学習スペース、学習機能	○学習スペース、学習機能
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習センター機能の充実を図ること。 ・ 学習センター機能の充実を図るための部屋。 ・ あまり利用されていないのではないか。学習スペースが少ないのかも。 ・ 図書館と小・中・高が連携して調べ学習を図書館で行なうというような事業があればと思う。 ・ 市内の多くの生徒・その養育者が自習の場と認識している。 ・ 学校図書館<市立図書館<県立図書館の位置づけと利用が一般的かと思う。 ・ 図書館学習の機会が定着している松江市では、調べることを自主的に行う生徒児童は魅力的な場所なのだと思う。 ・ 学習室のあるところ。 ・ 子どもにやさしい、利用しやすい図書館になっているか。単なる設備の使いやすさではなく、学習に集中できる環境、学習機会の提供、啓発の場など自己形成に生かせる場になっているか。 ・ 学校で借りているのであまり利用しない。 ・ 幅広い視野で情報を得ることができる場所。 ・ 自由に自分の学びたいことを学べる場所。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在、小中学校の児童生徒に対するサービスは、全国的にも進んでいると思う。さらに、蔵書数や物流システム、学校図書館との連携等の充実を図るためには、(予算を伴うので難しいとは思いますが)人的・物的な確保が第一だと思う。 ・ 学校で買える図書は予算的に限られている。公共の方で足りないところを補ってほしい。 ・ 読む習慣がついている子は自分で好みに調べる。保育所、幼稚園に行く小さな子どもにもっと力を入れることも必要。 ・ 調べ学習ができたり、勉強を教えあったり、集中して学べる場所であってほしい。 ・ 図書館で時間や手間をかけて調べることで、自分の知りたいことを知る喜びを味わえるので、小・中・高と連携して調べ学習を授業に取り入れるといいのではないかと。 ・ 純粋に図書館の図書を利用しての調べ学習の生徒児童と、自習の場利用の生徒の棲み分けを全松江市で議論し、方針決定とそれに基づく環境整備が必要な時期にきているので、市立図書館としての受け入れ方針を明確にしていくのが好ましいのでは(本を利用しない人は〇〇へと言い切ってもよいかと)。 ・ 学習室。 ・ 学習機の増設。 ・ 情報リテラシーを学べる、あるいは助言をいただける環境づくり。 ・ 本来、図書館は「インプットの場」だと思うが、読書や図書研究を通して学んだことを元にした、アクティブラーニングの要素も必要。 ⇒書籍テーマを利用したワークショップなど。 ・ 子どもたちにとっての図書館施設の市域での偏在を補うものは、学校図書室。学校図書室を想像力や調べ学習の魅力に満ちた場所にするために必要な蔵書・人材について、市立図書館の支援が大切。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の図書館に、今は図書館の先生(学校司書)がおられるのに驚いたが有り難いと感じた。 ・ 学校図書館との役割分担、連携もあるのでは？ 	

○施設・設備	○施設・設備
<ul style="list-style-type: none"> 家庭の経済格差を超えて、読書の楽しさや知性の深みに触れることのできる貴重な文化資源。それだけに、旧町村単位くらいには施設があることが本当は望ましいと考える。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 子どもと大人は違うフロアが良い、通路を広く(ベビーカーなどでも利用できる)。
	<ul style="list-style-type: none"> 独立した乳幼児のスペース・子どものスペースの確保。 子どもたちが寝転がっても良いようなフロアの部屋の設置。授乳室やベビーシートの設置。 青少年が学習したり、ミーティングしたりできるスペースの設置。
<ul style="list-style-type: none"> 中高生にとっては、行ける場所、友達と一緒にいられる場所や一人で出かけられる場所が少ない(安全面、金銭面、校則)。 	<ul style="list-style-type: none"> 居場所が限られている子どもたちにとって、図書館は安心して居られる場所であって欲しい。 一人でも、友達とでも居心地がよく、本や人と出会え、勉強できる十分なスペースをお願いしたい。 アマゾンの「ほしいものリスト」のように、子どもたちが買いたいのには買えない本や参考書を譲ってもらえたり、飲み物、お菓子代などを寄付できるサービスがあっても良いかも。 高校時代に松江には遊べる場所がイオンくらいしかない、という印象を持ったまま進学や就職で離れてしまった人たちが、こんな場所があるなら松江に帰ってきてても楽しそう！と感じられるくらい素敵な図書館になって欲しい。
	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちだけで来られる図書館。
○実施事業	○実施事業
	<ul style="list-style-type: none"> 悩み事を相談できたりする場所の提供。
	<ul style="list-style-type: none"> 好奇心が活発になる催事や地域資料の展示。
	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの参加できるイベント。
	<ul style="list-style-type: none"> ネットで調べられるが、「本を読むこと」「本を使って調べること」で、脳や心の成長、考える力にどのように関係するのか、将来の時間の使い方や生活のしかたにまで影響があるのか、情報発信が必要だと思う。
	<ul style="list-style-type: none"> 読書通帳の導入。親から子どもへの読書記録のプレゼント。
<ul style="list-style-type: none"> 行きっかけがない子もいると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 仕事体験や、住みたい町プロジェクトなど、学校との連携で、選書、棚作り、ポップ書き、朗読会など、学生や子どもたちが主体的に企画・参加できる機会があると、目線も変わり、図書館への愛着が生まれやすくなるのでは。

⑤文化の発信に関して図書館ができることとは	
論点について、現状課題と感じていること	論点に関して意見、要望
○ふるさと、郷土、伝統文化	○ふるさと、郷土、伝統文化
<ul style="list-style-type: none"> ・ 松江市の歴史に関する資料を探しにくい。 ・ 小泉八雲の視点を大切にすべき。 ・ 茶の湯文化の松江ならではの発信をもっとしてもらいたい。 ・ 所有の小泉八雲文庫の利活用がなされていないのでは？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ わかりやすい松江市の文化や歴史が調べられるスペースの設置。 ・ 小泉八雲の作品を朗読した映像の収集。 ・ 茶の湯文化のイベントを定期的にするといひ(例えば、小さい子でも参加できるお茶会)。 ・ 「Wikipedia town matsue」ウィキペディア内の松江市の記事を各分野ごとに拡充、英訳も行い、インターネット上の松江市(情報)を拡大させる活動は楽しそうでおススメです。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「Wikipedia town matsue」については、図書館の情報を典拠に情報を書くと、信憑性の高い情報になる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の文化、情報が集約、連携されているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化の資料保存の一元化は難しいかもしれないが、連携ができ、網羅的にその関係性が各所で確認できるように同じような表示の仕方をする。図書館が、地域の文化や歴史を調べるにあたって中心的役割を持つ。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域資料は、その都度記録していくと同時に、活用していくと様々なサービスに繋がる。例えば、高齢者に対する追憶サービス(昔の写真を見て昔を思い出す)。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 松江の文化に関する本を集めた展示コーナー又は郷土資料室を作るほか、その文化に関する物なども一緒に展示することで、松江市に住む方が改めて松江の文化を認識することができるのではないか。 ・ Twitterを活用して、松江市に関する豆知識や図書館の普段は入れない裏側の写真などを付けいたら図書館が身近に感じられる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 八雲関係以外のデジタルアーカイブの構築。 ・ 松江市に関するレファレンス記録をHPに載せる。 ・ 地域の昔の写真などをデジタル化してアップし、地域の人たちにお知らせする(「まち残し事業」)。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 松江市の伝統文化啓発図書と関連して体験できるワークショップの開催(体験する場を設けて、そこから本へつなげていく取り組み)。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 選ばれるまちづくり、松江を超える松江のありかたを図書館から発信できると良いと考える。例えば、松江市は文化的な街。そこに住んでいる市民も、幼いころから市立図書館を利用している。文化的なことを調べたり、学んだり、市内の小中学校は図書館活用教育を行っている。などなど、HP上でお知らせしてもよいのでは？と思う。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 松江出身、在住の著名人(小泉八雲・不昧公～現代に活躍する著名人など)について発信(例えば動画発信)し、子どもたちに松江のよさを伝える。可能であれば複合展示やトークショーなどと同時開催。 ・ 松江ふるさとの味・食文化の発信。市立図書館と学校図書館と学校給食(メニュー)が連動することにより、子どもたちに根付く。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外に向けて観光、地域発信できる情報を有するよう。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市が持っている記録写真など公開していいものがあれば、図書館に置いてもらうとよい。 ・ 歴史館など他の施設と連携ができると助かる(図書館で「その資料はあそこにあるよ」と教えてもらえるとうい)。 ・ 小・中の電子黒板に対応できるよう、資料も紙媒体でなく、データ化していかざるを得ないのではないか。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館の場合、博物館資料と違って、必ずしも現物でなくてもよい。媒体は問わないと思うので、例えば電子ファイルで収集することも可能。

<p>○文化全般</p> <ul style="list-style-type: none"> ・間違いなく「知の愉しみ」の最大の発信源となり得る。問題は発信者をどこまで確保するか/できるか。仮に有識者だけでなく一般市民をレポート・作品の発信者にした場合、公共図書館として適正とはいえない内容(例えばヘイトテキストなど)をどう回避するかが課題(有識者でも同じこと)。 	<p>○文化全般</p> <ul style="list-style-type: none"> ・左記の課題は大きなものだが、それでもなお、「発信したい市民」による様々な発信を可能にするような取り組みを期待する。
<ul style="list-style-type: none"> ・市広報内の「新しい本が入荷しました」は気がついていないが、その他はイベント「よるの図書館」くらいしか把握していない(建岡個人の場合)。 ・市民自主活動の場の提供。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを活用した地域の情報発信。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他図書館のおもしろい取り組み事例 <ul style="list-style-type: none"> ・スーパーのチラシを資料として収集(20年後、30年後に、当時の物価を知ることができる)。 ・喫茶店のメニューを収集する。 ・定点観測(例えば、図書館職員が松江駅前の写真を3～5年に1度撮影するとすばらしい資料となる)。
<ul style="list-style-type: none"> ・公共、民間垣根を超えた連携がとれているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リンクの貼り方や連携などの仕組みづくりをすると第1歩が踏み出せる。(公共と民間の垣根を超えた連携)。
<ul style="list-style-type: none"> ・文化の発信場所として講演会があったり、勉強会があったり現状でもしておられるかと思う。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・他施設、学校と連動したテーマ設定。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ネット等のメディアを使って宣伝する機会が少ないのではないか。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・レファレンス機能の充実。専門司書の配置。 ・デジタル化が進む時代なので、装丁を楽しみ、厚み、重さを感じながらページをめくり、その前に読んできた人の気配まで感じる紙の本の魅力を広めてほしい。経済的な効率を追う必要のない公共図書館だから出来る配置や選書、飾り方。読書会や、地域の人、出身著名人が子どもの頃に読んだ本やオススメなどのスペースも作ってほしい。 ・図書館の職員に協力してもらいながら、地域のことについて理解を深めることができることを知らせてもらうとよい。
<ul style="list-style-type: none"> ・知のストック。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域文化のアーカイブとしての活用(デジタル含め)。
	<ul style="list-style-type: none"> ・茶の湯文化、和菓子文化、八雲塗や陶芸などの記録をきちんととっておいて、民間と一緒にあって若い人たちに伝えていこうな仕掛けづくり(イベントができるスペースがあり、そこでイベントを行い、もっと深く知りたい人は文献を見せよう)。
	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の図書館運営への参加。図書館友の会(図書館の運営を支援する市民の会。自身の経験を生かして図書館で講演を行うとかフロア業務の一部を行う)などに入ってほしい、色々な催しをすることで、世代間の情報交換や交流ができる。 ・ウェブサイトに資料情報自体の発信も重要だが、「図書館が何をやっていて図書館に来たらこれができる」という広報が重要となる。また、ウェブ上で情報がすぐに見つけられるとよい。

⑥県立図書館との役割分担をどうするか	
論点について、現状課題と感じていること	論点に関して意見、要望
○立地	○立地
<ul style="list-style-type: none"> 市民の満足度を考えると、地理的に県立(橋北)と分散し、橋南地域が良い。 橋北、橋南で利用しやすく。 	<ul style="list-style-type: none"> 橋南地域への設置を望む。 市域が広いので、小さくてもいいので分館なども考えて、皆が行きやすいところに点在するかたちで設置してもらおうとよい。
	<ul style="list-style-type: none"> 橋北と橋南という立地。交通弱者の方々にとって、より行きやすい図書館であってほしいので、駐車場の確保とバスの南循環線の停留所ができるといいと思う。
	<ul style="list-style-type: none"> 「役割分担」は行政効率(財政効率)の視点であり、市民の使い勝手としては、橋北と橋南にそれぞれ大きな図書館があることはメリットだけでデメリットはない。
<ul style="list-style-type: none"> (住まいが橋北の方は)遠い。図書館といえば県図書イメージ。 市内出身の学生ほど市立図書館の場所を知らない(県図書と間違える)。 	<ul style="list-style-type: none"> 市立図書館を知らないのはもったいない。PRしていくという点で、やれることがたくさんあると思う。 図書館と利用者とのコミュニケーションは、館内だけではなく館外から始まっている。県立と市立があることを市民に知ってもらうためにも、JR松江駅に案内表示をする必要がある。コミュニケーションは、そういうところから始まっていくので検討してほしい。
○機能	○機能
<ul style="list-style-type: none"> 県立図書館は県内全体の配本機能を持つ点が、松江市域だけの市立図書館との大きな違い。市立図書館が充実すれば県立図書館は松江市以外の支援に注力できるわけで、特段の競合はないと考える。 	
<ul style="list-style-type: none"> 国立-県立-市立の役割分担の基準があいまいな結果、「利用者数増」のために「目の前の利用者の要望に応える」ことに終始されているのでは？ 利用者は「最寄り施設の設備・整備が充実してほしい」と希望するものだが、図書館設置条例等「市民が作った決まりごと＝条例や規約」の存在を知らずに希望(や不満)を述べるのが常態化している。 	<p>今回の会議は「有識者を含む市民による議論の場」なので、財源・年間予算・設置条例・運営に関する規約など、行政運営の仕組みを説明・解説する時間を設けることを希望する(市民はこれらについて知り得ないのが当たり前の2020年現在。議論が「夢や理想を語り、その実施運営は考えない＝他人ごと」になるのを危惧する)。(再掲)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「松江市立図書館は○○です」といった施設の特性を設定し、その機能に特化した整備を充実。 県立図書館に「地域内総合図書館」機能をお任せして、「松江市および松江市の○○」はこちらにお任せを！といった専門知識を有する職員の配置・育成。
	<ul style="list-style-type: none"> 市立図書館では、松江についての資料を積極的に収集することが必要ではないか。⑤にも言えることだが、本だけでなく、松江で行なわれる文化的なイベントのチラシを収集しておくことも大切なことであると思う。
<ul style="list-style-type: none"> 大学、高専図書館も含めた市域の資料物流システムの構築。 	<ul style="list-style-type: none"> 県域の資料物流システムは、すでに県立図書館が拠点となって構築されている。市域については、市立図書館が拠点となって構築。
	<ul style="list-style-type: none"> 松江市立図書館は、多面的・多角的な活用ができる市民の大切な憩いの場の一つとなればよいのではないか。公民館のように地域の拠点となる場に図書館があると喜ばれるのでは？と考える。 県立図書館との住み分けは行政側で考えていただければよいのではないか。
<ul style="list-style-type: none"> コンセプトをしっかり打ち出して差別化を図る。 専門性・深さ⇒県立、スピーディ・広さ⇒市立 	<ul style="list-style-type: none"> 思い切って子育て環境整備に傾注した図書館づくりに、コンセプトをしっかり打ち出しても良いのでは。 県立は県立の役割があるため、あまり意識して線引きしすぎない方が良いように思う。 松江市らしさ、親しみやすさを大切に。
<ul style="list-style-type: none"> 市民に身近で利用しやすい市立図書館。 県立図書館は市立図書館も含め地域を支え、支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 縦割りに明確に分けることは難しいと思われる。機能、業務で明確に分けることのできるものではないか。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民としては、市立図書館は身近で使いやすい図書館であってほしい。市立図書館が、「こういうことを打ち出したい」というところを明確にしてもらった方がよい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門的な資料を探すためのアドバイスなど分かりやすく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市立図書館には本への親しみやすさ、本を読まない人でも行ってみようと思うきっかけ作りなどを求める。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門家で話し合うべき。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 来館だけではなく、出張など市民と図書のはぐれあいの機会づくりを増やす。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市立図書館としては、松江らしさを表に十分に出し、松江市民が集うところとなるとよい。